

未来^眼とうほく 第27回

文化をつなぐ博物館

東京国立博物館は、わが国最古、最大の人文系の総合的博物館として日本を中心に広くアジア諸地域における文化財の収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及活動を行っている。142件の国宝を含め同館の収蔵品、寄託品の総数は12万件を超え、多岐にわたる貴重な文化財の見学に、年間200万近くの人々が訪れる。銭谷館長は、秋田市土崎港ご出身で秋田高校を経て東北大学を卒業後、文部省（現文部科学省）に入省された。主として学校教育行政に携われ、教育基本法の改正、数度にわたる学習指導要領の改正などに取組み、文化庁にも出向された。そして、文部科学省事務次官を経て平成21（2009）年から東京国立博物館の館長を務められている。

生涯学習の場として一層重要性を増す博物館のあり方、日本文化の特性、教育への思いなど幅広くお話を伺った。

過去を知り、未来を考える

●町田 本日は、主に3つのテーマについてお聞きしたいと考えています。



銭谷 眞美（ぜにや・まさみ）

1949年秋田市生まれ。1973年東北大学卒業、同年文部省（現文部科学省）入省。1998年同省大臣官房審議官、2000年内閣審議官（教育改革国民会議担当室長）併任。2001年文化庁次長、2003年文部科学省生涯学習政策局長、2004年同省初等中等局長、2007年同省事務次官を歴任。2009年独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館館長に就任。

まず、東京国立博物館の館長としてのお立場から博物館全般に関して、次に、教育行政に長らく携われたご経験から教育の課題など、最後に故郷秋田への思いを、それぞれお伺いできればと思います。

●銭谷 東京国立博物館の起源は、明治5（1872）年に文部省が万国博覧会出展のために全国から集めた文物の展示を、湯島聖堂で博覧会として開催したことにさかのぼります。戦前は、宮内省所管の帝室博物館であった期間が長く、戦後、再び文部省の所管になり現在に至っています。

設立当初は、自然科学系も含んだ博物館でした。その後、日本、アジアの美術品、考古遺物等を収集しつつ、自然科学系は移管して、現在ご覧いただくような姿に変化してきました。収蔵品ならびに寄託品を合わせて12万点を所蔵し、その中から入れ替えをしながら6つの展示室で常設展示をしています。これを、総合文化展とよんでいます。それに加え国内外の文化財をお借りして展示する特別展を年に数回開催しています。日本で最古の日本美術を中心とする博物館として中心的な役割を担っています。

当館をはじめ国立科学博物館、東京都美術館、世界遺産に登録された国立西洋美術館などがある、ここ上野公園は、「文化の杜」といわれております。日本の方々のもとより、多くの外国の方々を訪れており、当館でも夜間開館や多言語による説明など、来訪者が楽しめるよう心がけているところです。

●町田 外国ではどちらの国の方々が多いですか。

●銭谷 常設の総合文化展は30%ぐらいが外国の方々という日もあります。欧米の方が多かったのですが、最近では中国、台湾、東南アジア等の方々が増えてきています。

特別展ではモナリザ展、ツタンカーメン展、奈良興福寺の阿修羅像展などを開催してきましたが、100万人を超える方にご来場いただいたものもあります。

特別展に多く来場していただくことはもちろんですが、総合文化展にも、より多くの方に来ていただけるように工夫しなければと思っています。当館には、教科書にもとりあげられている有名な品が多いので、で

きるだけ親しみのもてるものを展示するように心がけているところです。

●町田 上野には東京芸術大学がありますが、同大学とはどんな交流をされていますか。

●銭谷 共同研究や作品の解説をお願いしたり、作品の作成過程をお客さまに観ていただくなどの活動を一緒にしています。

本館の入場者は比較的年配の方が多いので、若い人に来てもらえような教育プログラムですとか、大学生を対象に無料で観覧できるキャンパスメンバー制度等も用意しています。

人類の足跡をご覧いただき、現在、われわれがどこにいて、これからどこにいこうとしているのかを考えるよすがとなればと思います。

重層的な日本の文化

●町田 まさに日本の文化を象徴する宝物を管理していらっしゃるということですが、日本文化の特性についてはどのようにお考えでしょうか。

●銭谷 日本の文化は有形、無形を含めて本当にすごいなと思います。奈良時代までは中国、西アジアの影響を受けましたが、平安、鎌倉時代にはそれを日本独特のものにしました。室町、戦国時代になるとアジアに加え欧州の影響を受けましたが、江戸時代にはそれをあらためて日本独自の文化に昇華させていきました。日本には、地域性のある伝統芸能、祭りなどの無形文化財を含めて重層的かつ多彩な文化があります。

●町田 吸収力のある文化といえますね。

●銭谷 日本の文化は、江戸時代末から欧米でジャポニズムとして認識されました。広い意味ではアジアの文化圏ですが、独特の特性があるということが知られていたのではないのでしょうか。

●町田 20世紀の終わりに「文明の衝突」という本が出ましたが、その本でも日本の文化・文明は独自のものとして認知されていますね。

●銭谷 日本には縄文、弥生、古墳時代にわたる考古遺物がたくさんありますが、それに加えて各地の神社仏閣、旧家などに伝わった伝世品が多いのが特徴です。

国の文化をすみずみまで破壊するような大きな戦乱が少なかったこともありますが、ものを大切にしているのが博物館を見るとよく分かります。

●町田 江戸時代は、支配階級には権力は与えたが、富は与えず、庶民の文化が熟しましたが、そういうと

ころにも重層的な文化が育った要因があるのかもしれませんが。

●銭谷 そうですね。江戸期の経済的な担い手の人たちの文化への影響は大きなものがあります。

ところで、博物館も国際的な連携を進めていますが、平成31（2019）年に京都で世界博物館大会（ICOM2019）が開催されます。過去・現在・未来そして世界をつなぐ「文化のHUB（結節点）」が大きなテーマとなりますが、各博物館とも一生懸命準備を進めているところです。

教育への思い

●町田 話は変わりますが、館長は学校教育行政について大変なご経験をお持ちで、また、教育改革にも大きな役割を果たされたと同様です。

日本のこれからは、GDPの成長より世界に尊敬される文化をいかに作りあげていくかということが、大事です。そのためには教育の役割がより一層重要です。

文部省、文部科学省では主に教育行政に携われたとのことですが。

●銭谷 私は大学で教育学を専攻し、文部省に入りました。まず、日本は資源がないので、人材の育成こそが大切という思いがありました。そして、どのような環境に生まれてもきちんとした教育を受けられ、自分自身で道を切り開いていけるような人を育てる、すなわち教育の機会均等、教育水準の維持向上を実現していく、この理想に惹かれて入省しました。

平成18（2006）年、初等中等局長のときに、教育基本法が約60年ぶりに改正されましたが、平成12（2000）



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、荘内銀行取締役頭取、同行取締役会議長、フィデアホールディングス取締役会議長等を歴任。現在、フィデアホールディングス取締役・指名委員会委員長、北都銀行取締役会長、荘内銀行相談役、フィデア総合研究所取締役理事をそれぞれ務める。また、2012年4月より2年間、東北公益文科大学の学長を務め、14年10月に同大名誉教授の称号を授けられた。



国宝 八橋時絵箱 尾形光琳作
写真提供 東京国立博物館

年に当時の小渕内閣の教育改革国民会議の事務局担当となって以来、微力ですがこの改正作業に長くかかりました。新旧の基本法とも、教育の目的は「人間形成、健康な国民の形成」で変わりありませんが、新基本法では新しく教育の目標として「知育だけでなく徳育、体育も大切であること」など5つを掲げています。教育基本法の改正に加え、学習指導要領の改訂などにもかわり、大変思い出深いものがあります。

教育に求められる変革

- 町田** グローバル化の対応など大学教育のあり方も大きく変化しなくてはなりません。社会で求められる能力も変化してきており、大学入試も改革されるようです。一方で大学生の学力低下が指摘されており、高大接続ということも言われています。
- 銭谷** 昔にくらべ、今の大学生の方が授業には真面目に出席しているのではないのでしょうか。しかし、自ら課題を見つけ、考え、まとめていく、これを教育関係者はPISA型学力といっているのですが、これが不足しているように思われます。しかし、この点は大学教育だけの問題というより学校教育全般の問題であろうと思います。
- 町田** 企業が求める人材としては、コミュニケーション力、イノベーション力などに重点がおかれるようになってきています。大学入試はこれまで知識を問うことに重きがおかれてきましたが、それも変わりつつあるのではと思います。
- 銭谷** わが国の全国学力・学習状況調査においても、知識理解を問うA問題と、コミュニケーション力、課題発見力などを問うB問題が出題されています。このB問題はOECDの学力到達度調査（PISA調査）にみられるPISA型学力というもので、こうした学力を育てていくようにしなければなりません。ただ、客観的な評価が難しいなど検討すべき課題もあります。
- 町田** 教員免許がなくても大学では教えることがで

- きます。小・中・高校でも、教育以外のいろいろな分野でキャリアを積んだリタイアシニア層が教えることができれば人材育成の幅が広がると思うのですが。
- 銭谷** 教員特別免許制度など、他の分野で活躍した人材に教育分野に入ってきてもらう道筋はできています。一方で、青少年の人間形成のためにしっかりした教育を行っていくためには、やはり、教員免許制度は必要だと思います。
- 町田** リベラルアーツ（教養）の必要性が再度いわれている一方で、企業では即戦力となる特に理系人材の育成を求めているということがあります。しかし理系であってもリベラルアーツは必要だと思います。また、選挙権が18歳からとなり、主権者教育の観点から高校においてもリベラルアーツ教育を高めるべきではないでしょうか。
- 銭谷** 主権者教育は非常に大切です。学習指導要領の改訂で、高校に必修科目として「公共」や日本史、世界史を融合して近現代史に重点をおいた「歴史総合」が新設されるようです。
- 町田** そのような科目の新設には全く同感です。歴史では、まず現代史を学んだ方がよいのではと思います。
- 銭谷** そうですね。歴史教育は大変重要です。今は、小学校では、歴史は人間が創ってきたという観点から人物中心の歴史を、中学校では世界史を背景とした日本の歴史を、高校では近現代の世界史、日本史をそれぞれ勉強するようになっています。人間社会は、歴史的、地理的な存在であることを認識し、そのうえで公共のためにどうつくすかを考えてもらうことが重要だと思います。

秋田の教育

- 町田** 館長は秋田ご出身ですが、秋田県の子どもは学力・体力で全国トップレベルにあります。その要因としてどのようなことが考えられるのでしょうか。
- 銭谷** いろいろな分析がありますが、まず3世代同居が多く、教育熱心な家庭環境や地域社会が子どもを見守るといった良い環境があるのではないのでしょうか。また、先生方も指導力のある方が多く、先生を尊敬し大切に作る風土があることも要因ではないかと思います。
- 町田** 大家族は教育のみならずいろいろな意味で大切ですが、残念ながら時代はますます「個」に向かっているようです。地方の良さは、大家族とコミュニティにあると思うのですが。
- 銭谷** 私が子どもの頃、50年前になりますが、秋田

- 県は学力調査で上位ではありませんでした。ですから、平成19年に全国学力・学習状況調査が再開され結果を見た時、秋田県のレベルにはびっくりしました。
- 学力については、福井、石川などの日本海側の県が上位で、秋田とも共通点があると思います。一方で、以前ほど都道府県の間、都市部、へき地との間の差がなくなっており、教育環境の整備に各地が力を入れているということだと思います。
- これからの大きな課題は、子どもの貧困問題への対応です。教育環境に加えてスポーツや修学旅行等の学校行事に参加できないような体験格差も問題で、対策を打っていく必要があります。
- 町田** 不登校やいじめの問題もあります。学校教育というより、むしろ家庭教育の問題であるかもしれませんが。
- 銭谷** 家庭教育に行政として立ち入ることは難しいのですが、子どもの健やかな成長を願わない親はいないということで、行政として応援していくことだと思います。
- 町田** 地方創生ということがいわれていますが、まだまだ、首都圏の偏差値の高い大学に生徒を送り込むことが高校の評価になっていたりします。どうしたらよいか悩ましいところです。
- 銭谷** 地元的高等教育機関を整備することだと思います。秋田にいい大学ができていくことは大変良いことですし、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。地方の高等教育の環境整備という点では、地域の大学、高等専門学校等が連携して地域のための活動を行っている金沢が参考になると考えます。地方の高等教育機関がより整備され、企業との連携がうまくみ合うようになればよいと思います。
- 町田** 秋田の国際教養大学は一つの成功例だと思います。また、秋田県立大学も地域課題解決に成果をあげています。
- 銭谷** 地元の人が地元の大学を評価することが大事だと思います。

アクティブシニアを地方に

- 町田** 地方出身で現在大都市圏に在住している意欲十分なシニア層に、地元に戻って活躍してもらいたいということで、北都銀行では今アクティブシニアの受け皿としてCCRC（生涯活躍のまち）プロジェクトを秋田市で進めています。反響が大きく、ニーズは確かにあると感じています。



スクールプログラム実施風景
写真提供 東京国立博物館

- 銭谷** アクティブシニアは一つのキーワードですね。個人差はありますが、60、70歳代の多くは若々しくて活動的です。地方に戻って活躍してもらおうということは大変良いことだと思います。
- 町田** 大都市と地方の2地域居住も可能だと思います。地方に外部の目を入れることにより一層活性化すると思います。
- 銭谷** シニア層は、人生の楽しみ方、チャレンジの仕方も分かっています。「子育ては秋田、年をとったら再び秋田」ということですね。福祉関係の予算が膨張していますが、それを抑制することになるかもしれません。
- 文部省時代に外国から英語教育のための青年に來日してもらった事業（JETプログラム）を起ち上げましたが、70歳ぐらいの人の応募もありました。「いつまでも青春」と言っていました。
- 町田** 座右の銘は、秋田での高校時代に巡りあった言葉と伺っています。
- 銭谷** 当時、校長をされていた鈴木健次郎先生の「汝、何のためにそこにありや」という言葉です。私が2年生の時に退任されたのですが、退任のあいさつを書き起こしたものを何度も読み返しました。
- 文部省に入省したての頃、井内慶次郎さんという大先輩から鈴木先生の話の伺い、大変誇らしい気持ちになったことを覚えています。
- 井内さんは、事務次官、当館の館長も務められた方ですが、一時期、文部省で鈴木先生と一緒に仕事をされ、鈴木先生が公民館運動の先駆者として全国を巡って、青年教育、婦人教育の場としての公民館設置を説いて回られたということでした。井内さんからは、「君はいい人に教わったな」といわれました。
- 良い先生に巡りあえ、大変幸せな高校生活をおくりました。
- 町田** 博物館、教育問題、秋田の思い出まで幅広いお話を伺うことができました。本日は、貴重なお時間をいただき大変ありがとうございました。